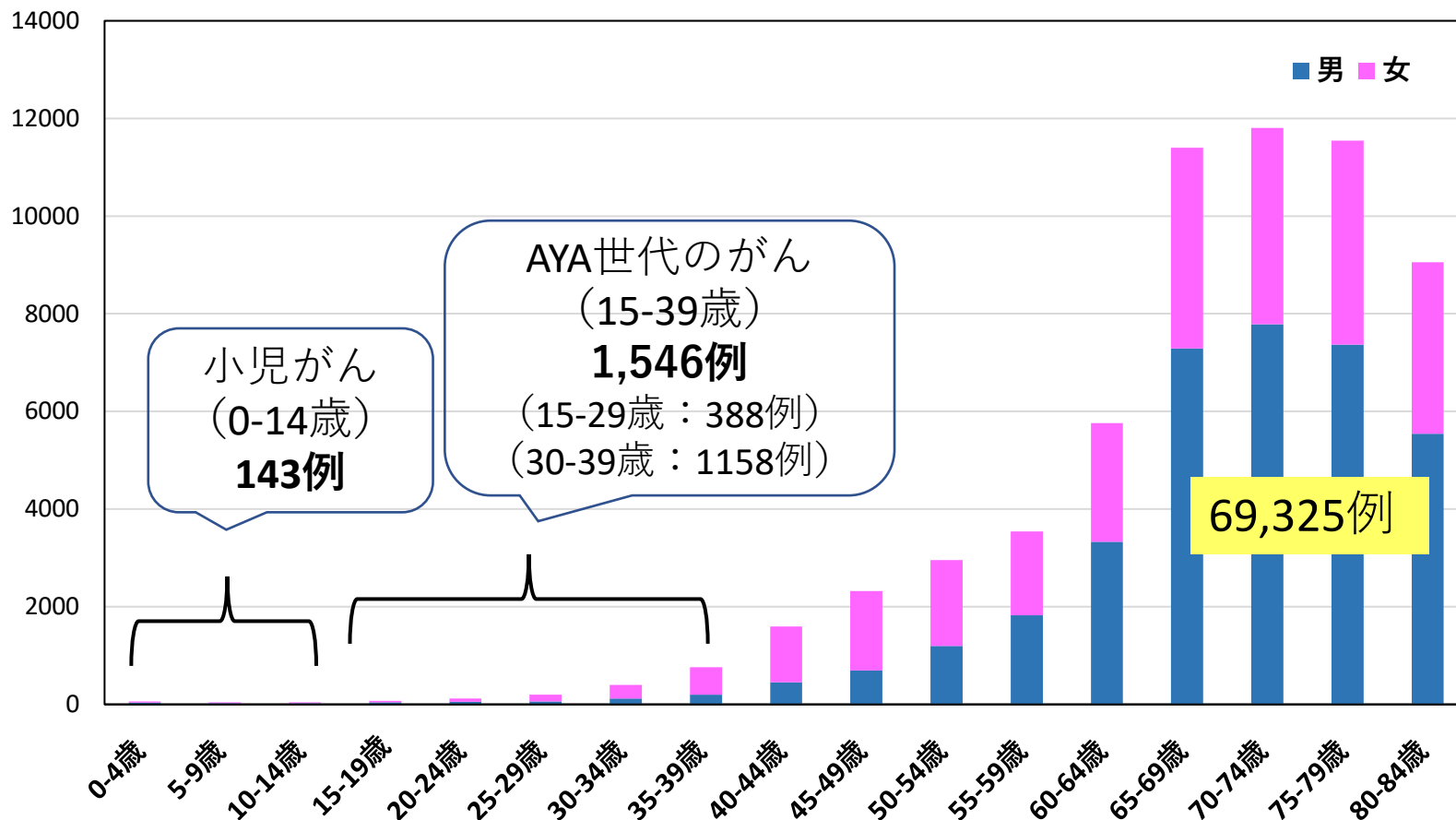


大阪府における1年あたり年齢階級別がん罹患数(新規患者数)

(2016年診断、大阪府在住、悪性のみ、上皮内がんを除く)

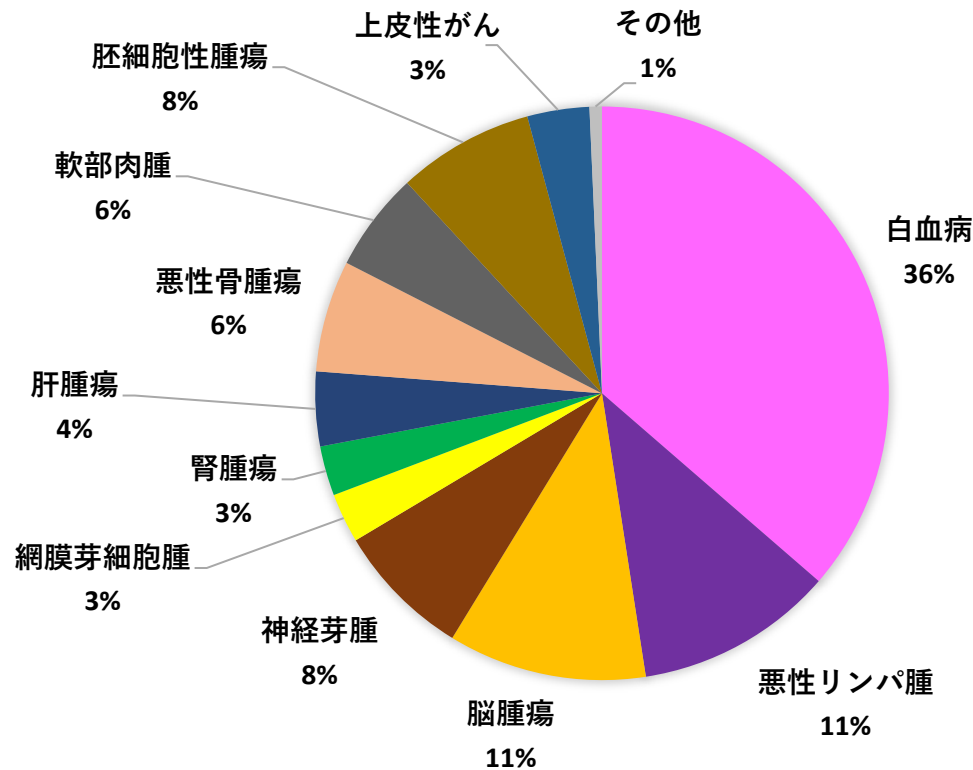


小児世代 = 全年齢の0.2%
AYA世代 = 全年齢の2.2%

(大阪府におけるがん登録-第84報より)

大阪府における小児（0-14歳）のがん種別罹患割合

－ 合計143例（2016年診断、大阪府在住、悪性のみ、上皮内がんを除く）

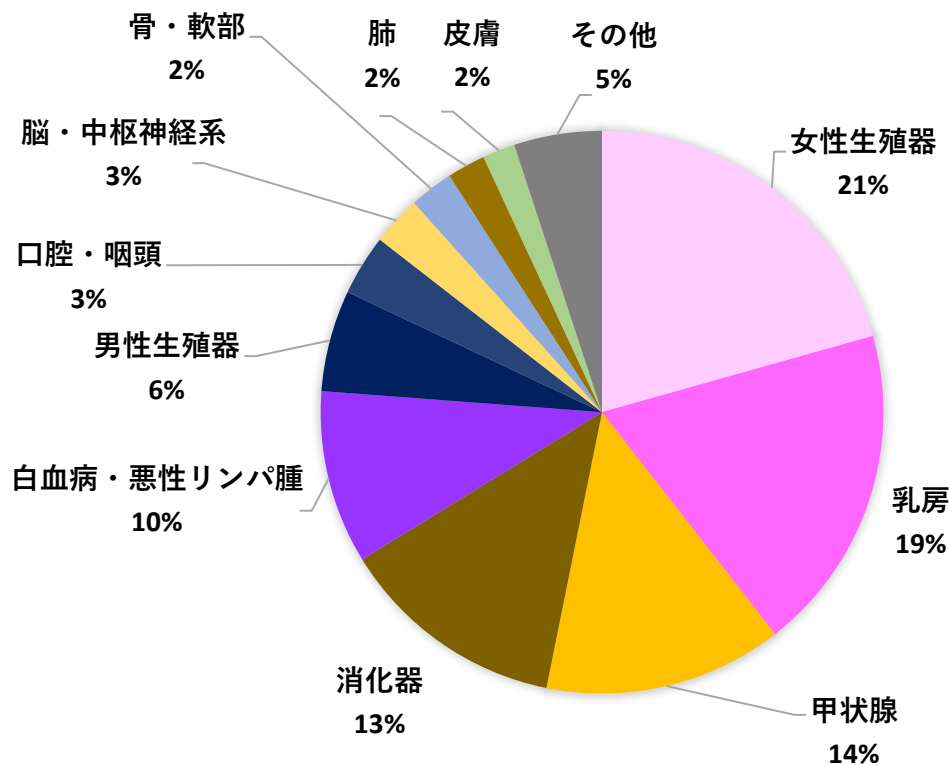


出典：大阪府におけるがん登録第84報（一部改変）

（大阪国際がんセンターがん対策センターまとめ）

大阪府におけるAYA世代（15-39歳）のがん種別罹患割合

－ 合計1546例（2016年診断、大阪府在住、悪性のみ、上皮内がんを除く）

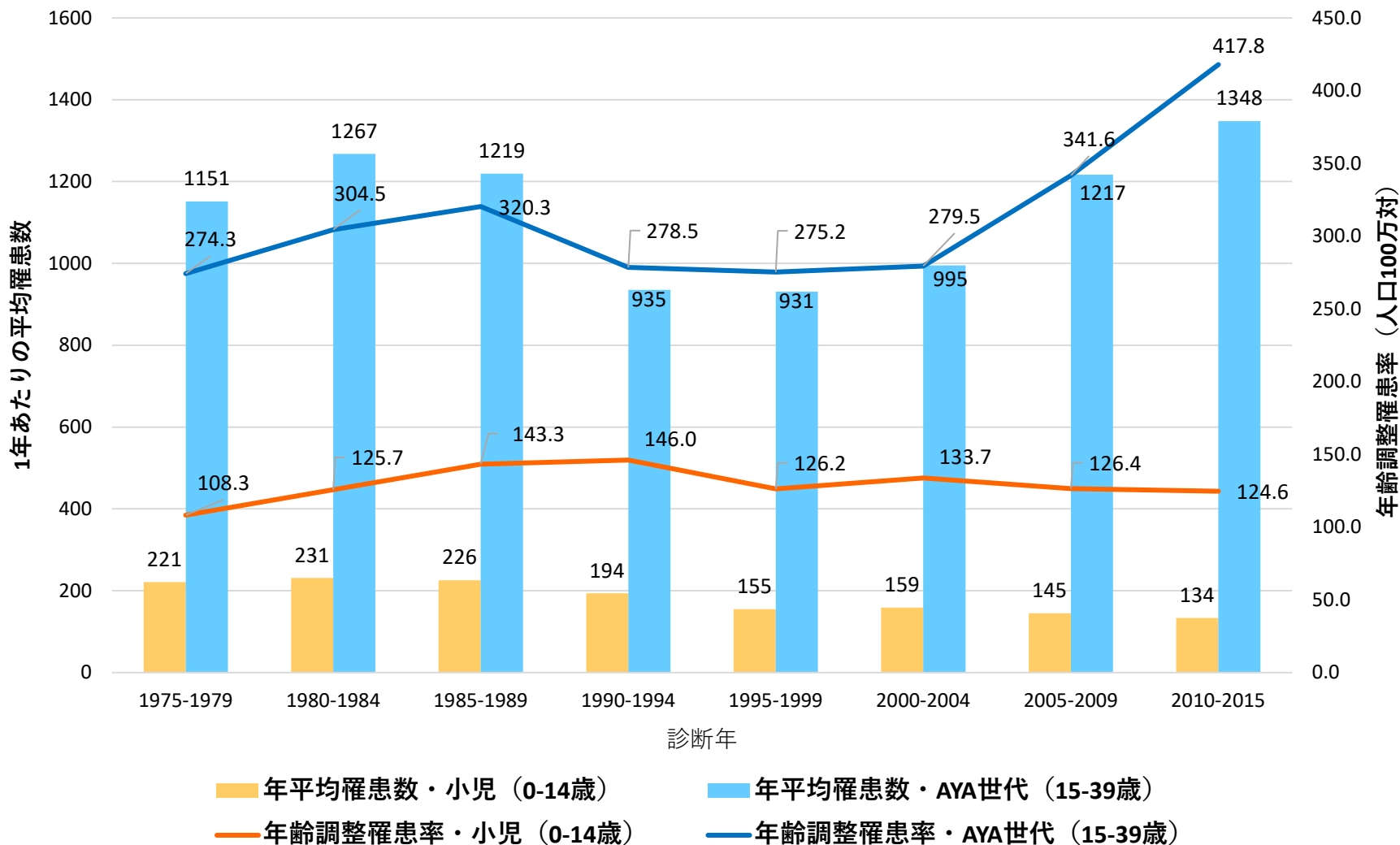


出典：大阪府におけるがん登録第84報（一部改変）

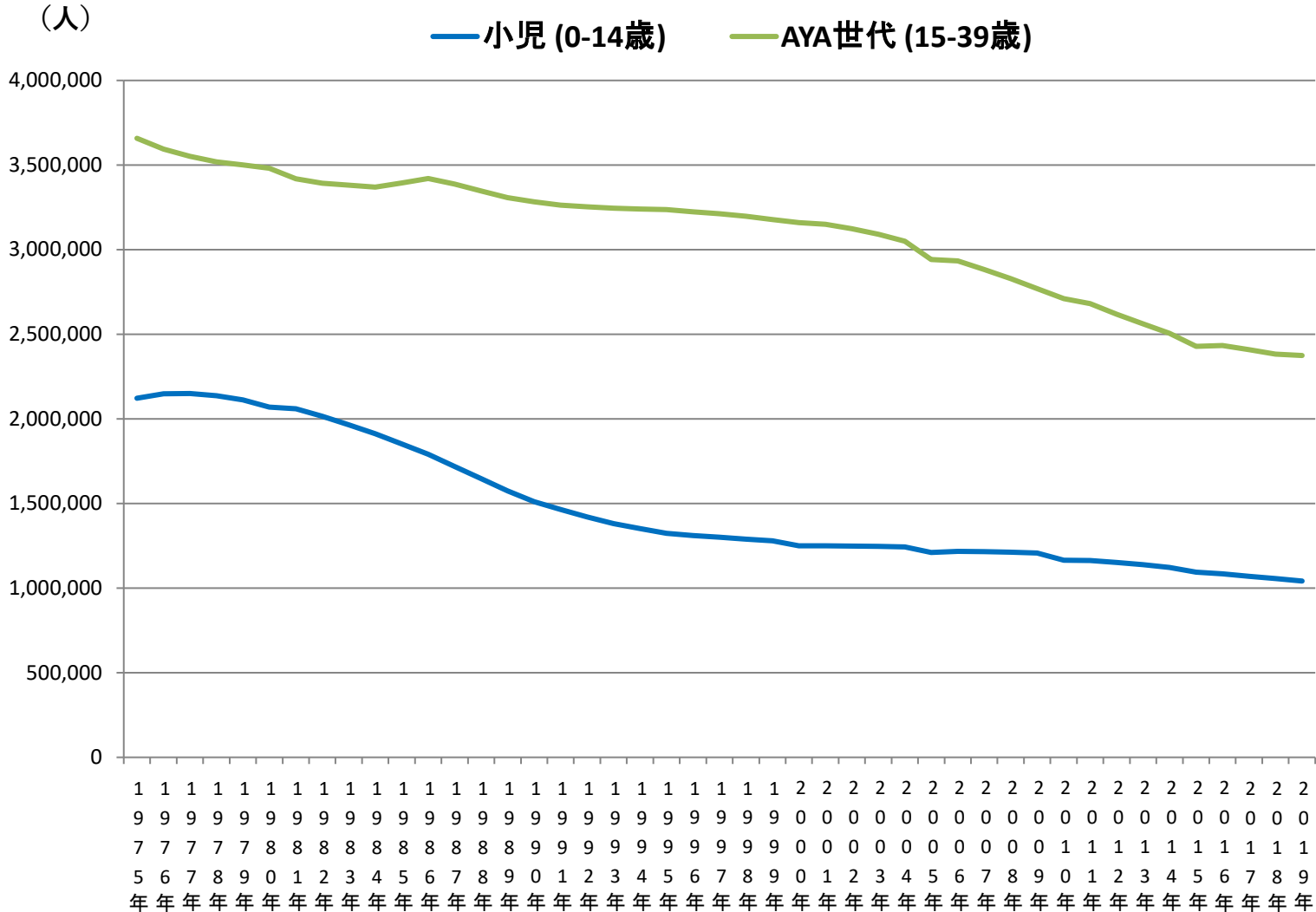
（大阪国際がんセンターがん対策センターまとめ）

大阪府における小児・AYA世代のがんの 1年あたりの平均罹患数・年齢調整罹患率の推移

(1975-2015年診断、大阪府在住、悪性のみ、上皮内がんを除く)



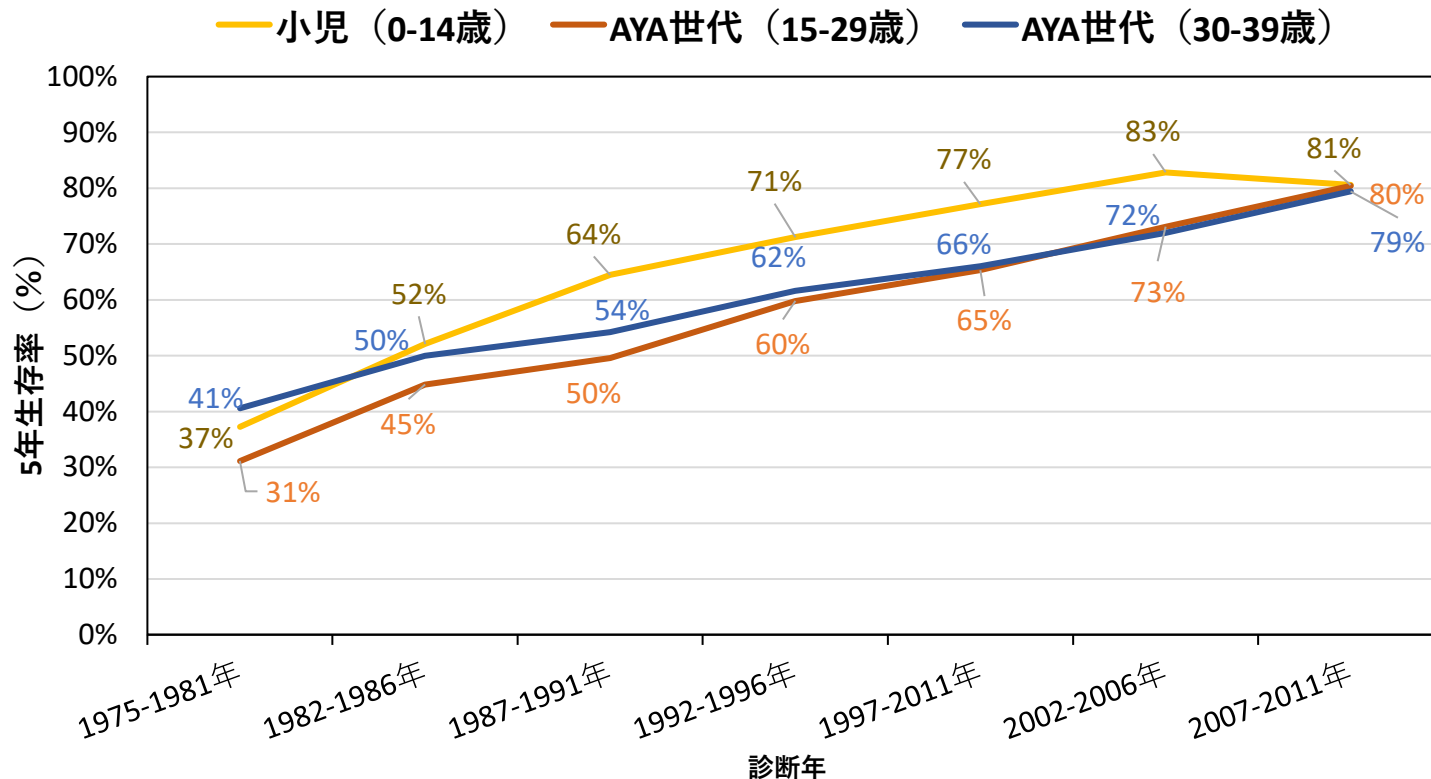
大阪府における小児・AYA世代の人口の推移 (1975-2019年)



出典：(5年毎) 国勢調査 (都道府県別、総人口)
 (その他の年について)
 1975年～1995年：地域がん登録集計用人口データ
 1996年～2019年：人口推計 (総務省統計局)

大阪府における小児・AYA世代のがんの5年生存率の推移

(1975年-2011年診断、大阪府在住、悪性のみ、上皮内がんを除く)



グラフは、大阪府における小児・AYA世代の全がん患者の5年生存率（Kaplan-Meier法）の推移です。小児・AYA世代のがんの生存率は、2000年代にかけて大きく改善し、近年では、全体として約8割の方が5年以上生存されています。

大阪府における小児・AYA世代の各がんの5年生存率

(2007年-2011年、大阪府在住、悪性のみ、上皮内がんを除く)

小児 (0-14歳)

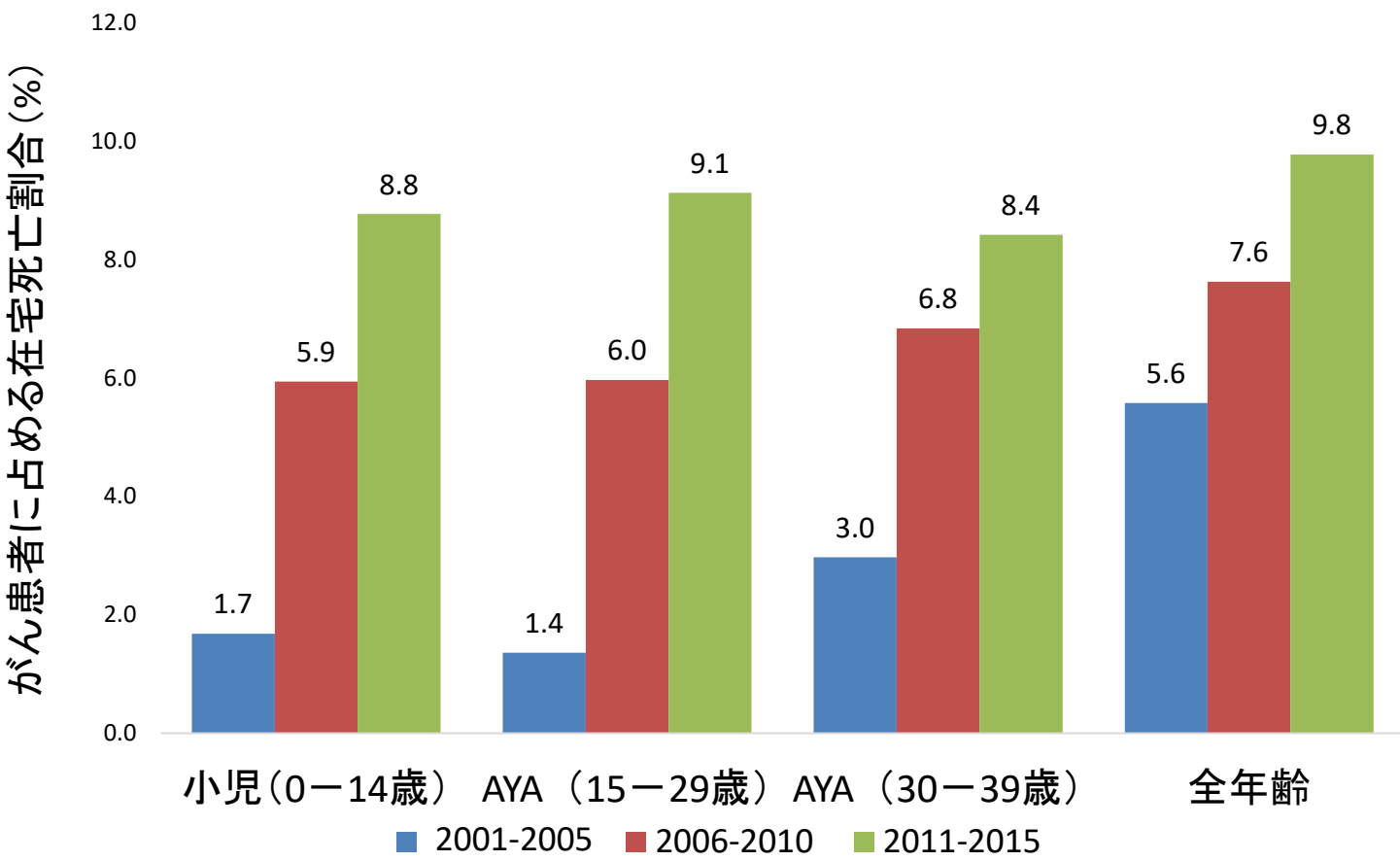
	0-14歳
白血病	84.2%
悪性リンパ腫	90.9%
脳腫瘍	61.9%
神経芽腫	74.4%
網膜芽細胞腫	95.7%
腎腫瘍	93.3%
肝腫瘍	83.0%
悪性骨腫瘍	80.0%
軟部肉腫	67.7%
胚細胞性腫瘍	95.7%
全がん	80.6%

AYA世代 (15-29歳、30-39歳)

	15-29歳	30-39歳
口腔・咽頭	82.6%	86.0%
胃	55.8%	59.4%
大腸	58.3%	71.8%
肝	57.1%	37.5%
肺	47.4%	39.7%
骨	65.9%	86.2%
軟部	73.0%	69.2%
乳	87.6%	89.5%
子宮頸	87.2%	86.5%
卵巣	97.4%	76.0%
精巣	96.7%	97.6%
脳・中枢神経	62.5%	55.1%
甲状腺	100.0%	98.3%
悪性リンパ腫	88.2%	79.0%
白血病	74.1%	73.5%
全がん	80.4%	79.4%

各がん種別にみると、がんの種類、発症年齢によって生存率は大きく異なることが分かります。例えば、小児において、悪性リンパ腫、網膜芽細胞腫、腎腫瘍、胚細胞性腫瘍の5年生存率は90%を超えていますが、脳腫瘍の生存率は61.9%と低くなっています。AYA世代において、甲状腺がんや精巣がんの5年生存率は、90%を超えていますが、肺がん（15-29歳：47.4%、30-39歳：39.7%）、肝がん（15-29歳：57.1%、30-39歳：37.5%）などは、低くなっています。また、白血病や悪性リンパ腫のように、同じがん種でも、小児よりAYA世代の方が生存率が低いものがあります。

大阪府における小児・AYA世代のがん患者の在宅死亡割合の推移



出典：大阪府におけるがん登録第84報（一部改変、大阪国際がんセンターまとめ）